

## 第 32 回台日工程技術研討会・講師履歴書

	お 名 前	川島 一彦
	ロ - マ 字 表 記	KAWASHIMA KAZUHIKO
	最 終 学 歴	名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程
	専 門 分 野	耐震工学
ご 勤 務 先 ・ 職 位	東京工業大学名誉教授	
主 要 職 歴	1972～1995 年 建設省土木研究所研究員、主任研究員、室長 1995～2013 年 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻教授 2013 年～ 東京工業大学名誉教授	
主 要 論 文 ・ 著 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川島一彦編著：地下構造物の耐震設計、鹿島出版会、1994.</li> <li>・ 川島一彦、北川良和：免震設計入門、鹿島出版会、1996.</li> <li>・ 川島一彦監修訳：橋梁の耐震設計と耐震補強、技報堂、1998.</li> <li>・ 川島一彦：地震との戦い-なぜ橋は地震に弱かったのか、鹿島出版会、2014.</li> </ul>	
講 演 テ - マ	Seismic Performance of Polypropylene Fiber Reinforced Cement Composite Bridge Columns (ポリプロピレンファイバーを用いた高耐震性能橋脚)  水泥及聚丙烯纖維材料組成的複合橋柱之抗震行為	
講 演 概 要	<p>世界各国において橋は地震の度に被害を受け、交通機能に甚大な影響を与えてきた。強震動下における橋の耐震性を向上させるためには、橋脚の変形性能を高め脆性的な被害を防止することが重要である。このための方策としてポリプロピレンファイバーを用いた橋脚は有効であり、この橋脚の優れた特性をくり返し載荷実験や振動台加震実験に基づいて検討した結果を紹介する。</p> <p>世界各國的橋梁受到地震的危害造成對於交通機能影響甚大，所以在大地震下為提升橋梁的耐震性能，對於提高橋墩的變形能力及防止脆性破壞是十分重要的。添加聚丙烯纖維建造的橋墩是有效提升方法，今天跟各位介紹這種橋腳的優越性能在反覆荷載試驗及震動台加載試驗下的試驗成果。</p>	